

# 社会資本総合整備計画(第4回変更)

小田原の広域交流拠点整備による都市の再構築戦略

平成30年3月15日

かながわけん おだわらし  
神奈川県 小田原市

社会資本総合整備計画（市街地整備）

平成30年3月15日

計画の名称	小田原の広域交流拠点整備による都市の再構築戦略				重点計画の該当	○
計画の期間	平成27年度 ～ 平成31年度（5年間）	交付対象	小田原市			
計画の目標						

計画地域一帯は、城下町としての豊かな歴史と文化を背景に、小田原駅という近代交通の要衝を擁し、社会経済や観光の一大拠点として栄えてきました。しかし、近年は、中心市街地の空洞化等の課題を抱え、まちのにぎわいにも影響しています。地域の活性化には、これまでも様々な取り組みしてきましたが、本計画により、小田原駅など交通、暮らし、歴史、文化の拠点を核とした、中心市街地の都市機能の充実に努めることで、より多くの人々が訪れ、回遊し、魅力の感じられるまちづくりを目標とするものです。

計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市立図書館の貸出者数</li> <li>・中心市街地の人口</li> <li>・歩行者数及び自転車通行者数</li> </ul>					
----------------	--	--	--	--	--	--

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考								
	当初現況値 (H27当初)	中間目標値 (H29末)	最終目標値 (H31末)									
	駅周辺地域に移転することで利便性が図られ、貸出者数の向上が図られる。	22,562人/年 (平成25年度実績)	-		27,074人/年							
	駅周辺地域に都市機能を集約し居住空間を整備することで、居住人口の向上が図られる。	10,841人/日 (平成24年度実績)	-		12,000人/日							
	「小田原市主要商店街流動客数調査」において計測される、小田原駅周辺各商店街の流動客数の合計値	62,123人/日 (平成23年度実績)	-	68,069人/日								
全体事業費	合計 (A+B+C+D)	2,070.7 百万円	A	1,799.8 百万円	B	236.1 百万円	C	34.8 百万円	D	0.0 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	1.7%

交付対象事業

A 基幹事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考
									H27	H28	H29	H30	H31				
1-A-1	都市再生	一般	小田原市	直接 間接	小田原市	小田原駅周辺地区都市再生整備計画事業	都市再構築戦略事業 197.8ha	小田原市						105.4			別添1
1-A-2	再開発	一般	小田原市	直接 間接	小田原市、民間事業者	小田原駅周辺地区第2期暮らし・にぎわい再生事業	都市機能まちなか立地支援 にぎわい交流施設整備 1,000㎡	小田原市						1,694.4			別添2
合計													1,799.8				

B 関連社会資本整備事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考
									H27	H28	H29	H30	H31				
1-B-1	再開発	一般	小田原市	直接	小田原市	お城通り緑化歩道整備事業	緑化歩道整備 延長約250m 幅員約2.5m	小田原市						236.1			
合計													236.1				

番号	一体的に実施することにより期待される効果													備考
1-B-1	暮らし・にぎわい再生事業（1-A-2）と一体的に緑化歩道を整備することで、小田原駅と小田原城址とを結ぶお城通りに安全で快適な歩行空間を確保し、中心市街地の回遊性の向上を図るとともに、歴史的景観の中ににぎわいのある中心市街地の形成を図る。													

C 効果促進事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H27	H28	H29	H30	H31		
1-C-1	都市再生	一般	小田原市	直接	小田原市	都市機能施設等評価分析に関する調査	都市機能施設等評価分析に関する調査	小田原市						34.8	
合計													34.8		

番号	一体的に実施することにより期待される効果													備考
1-C-1	1-A-1と一体的に実施することにより、都市機能施設等の整備への効果が実現できる。													

D 社会資本整備円滑化地籍整備事業(該当なし)															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H27	H28	H29	H30	H31		
合計															

番号	一体的に実施することにより期待される効果													備考
----	----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

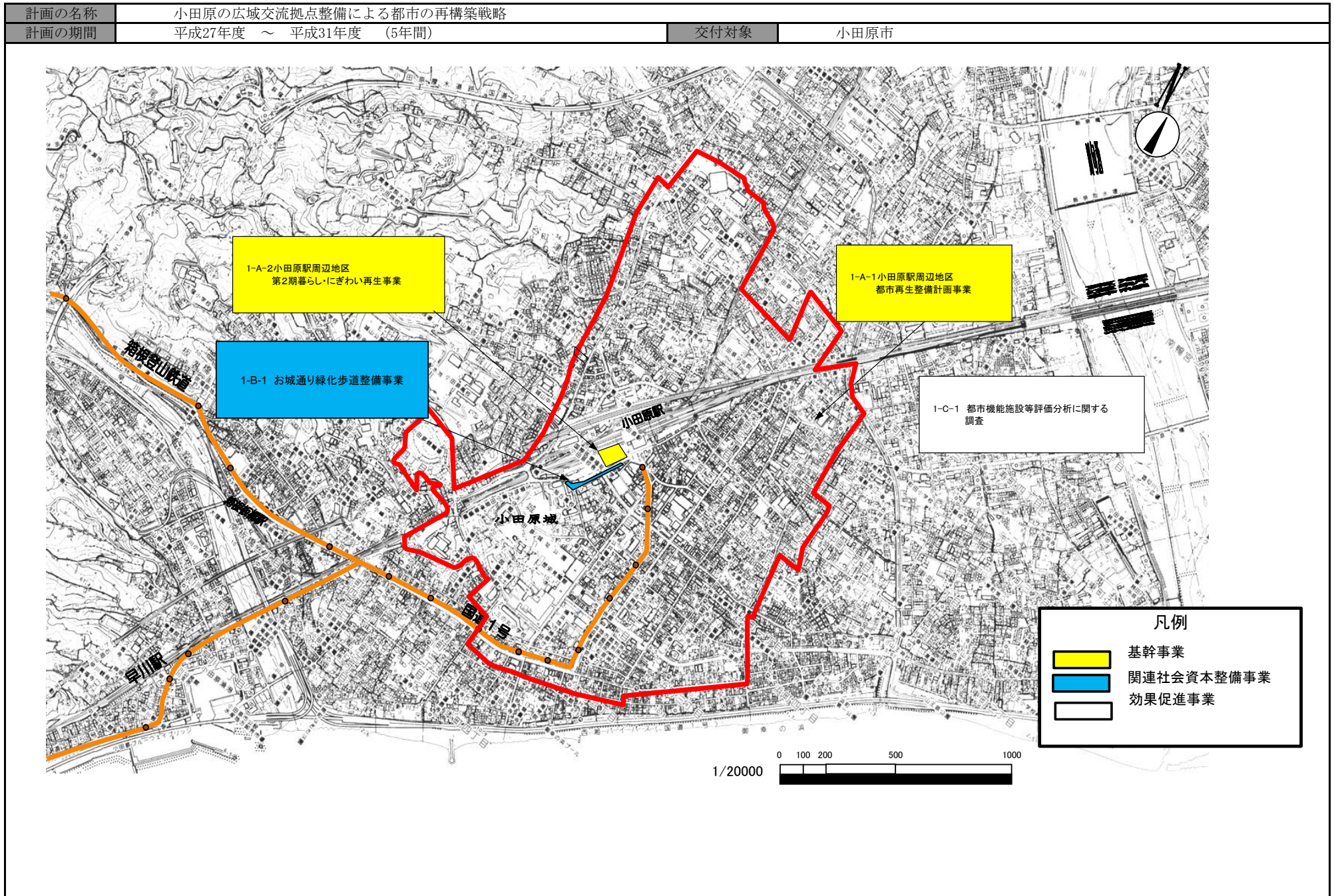
交付金の執行状況

(単位:百万円)

	H27	H28	H29	H30	H31
配分額 (a)	141.800	69.964			
計画別流用 増△減額 (b)	121.360	0			
交付額 (c=a+b)	263.160	69.964			
前年度からの繰越額 (d)	0	248.321			
支払済額 (e)	14.839	251.821			
翌年度繰越額 (f)	248.321	66.464			
うち未契約繰越額 (g)	0	0			
不用額 (h = c+d-e-f)	0.0	0.0			
未契約繰越+不用率 (h = (g+h)/(c+d))	0.0%	0.0%			
未契約繰越+不用率が10%を超えている 場合その理由					

※ 平成26年度以降の各年度の決算額を記載。

(詳細箇所参考図面)





# 社会資本整備総合交付金チェックシート

(都市再生整備計画事業等タイプ)

計画の名称: 小田原の広域交流拠点整備による都市の再構築戦略 事業主体名: 小田原市

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①都市再生基本方針との適合等	
1) まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	○
2) 上位計画等と整合性が確保されている。	○
②地域の課題への対応	
1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等	
1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3) 目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
4) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
5) 地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
④事業の効果	
1) 十分な事業効果が確認されている。	○
2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意	
1) まちづくりに向けた機運がある。	○
2) 住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
3) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
⑥円滑な事業執行の環境	
1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
2) 交付期間中の計画管理(モニタリング)を実施する予定である。	○
3) 計画について住民等との間で合意が形成されている。	○